

山行報告

◆六甲・紅葉谷山行

日 時：2月18日（日）

リーダー：砂川(延)

★六甲・紅葉谷山行の感想 西村(知)

六甲紅葉谷行動記録			
場 所	着	発	
阪急御影駅		8:30	
石切登山口	9:20	9:30	
六甲ガーデンテラス	11:15	11:25	
極楽茶屋（昼食）	11:40	12:10	
百間滝	12:50		
白石滝	13:10		
紅葉谷出会い	13:45		
有馬温泉銀の湯	14:00	15:00	
有馬駅		15:26	

前日の雨も上がり、阪急御影駅を8:30分にスター

トし、住吉川沿いに遡る。

やがて分岐点となり、石切道へと入る。石切道の名は有名な御影石を運ぶ道だったことに由来しているとのことである。石がごろごろしているかな？と思いながら歩く。鳥



の囀りも聞けず、雑木林には霧がかかっており、神秘さを感じる静かな道である。

やがて標高890mの六甲ガーデン。風も強く、小休止してすぐに極楽茶屋へと向かう。

昔は営業していたが、今は休業しているとのこと。又、六甲縦走の通過点だそうです。風の避けられそうな場所で、少し早めの昼食とする。沢沿いに下り、20分程で、百間滝の上流に着く。覗くと吸い込まれそうである。暫くすると滝つぼ・似位滝に出る。例年であれば扁妙滝と同じく凍結したオ

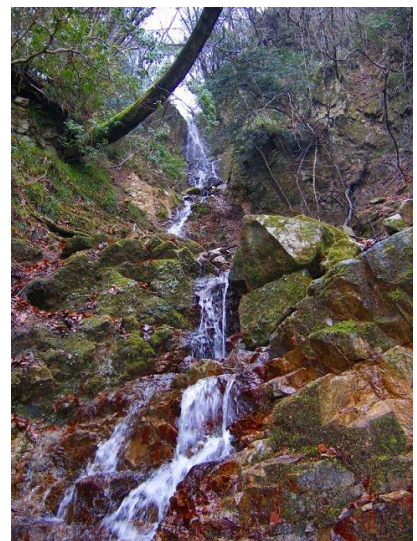


ブジェが見られたことでしょうが、

暖かい冬のため、凍結はしていませんでした。

足元を注意しながら沢を有馬方面へと下山する。

有馬温泉で一汗流し、帰路に着く。谷上から三宮まで北神線を利用したが、時間は僅か10分と早かった。しかし、その分運賃は高かった。



◆八ヶ岳スノーシュートレッキング

日 時：2月24日（土）～2月26日（月）

リーダー：砂川(延) 参加者13名



★八ヶ岳冬山登山にて 金島

ペンションの朝は遅く防災カーテンの外が明るいと思ったのは雪明かりです。

行動記録

2月24日(土)	
山電・高砂駅発	8:30
草津SA (昼食)	12:20
(発)	12:50
恵那峡SA	14:40
枝突峠	17:00
宿すばる	18:00
2月25日(日)	
宿すばる発	9:00
ロープウェイ山麓駅	9:30
山頂駅	9:40
坪庭出発	10:00
北横ヒュッテ	11:00
(発)	11:20
北横岳	11:40
北横岳下山	12:00
再度北横ヒュッテ	12:15
(昼食)	13:00
縞枯山荘	13:45
縞枯山山頂	14:30
ロープウェイ山頂駅	15:30
宿すばる	16:20
2月26日(月)	
宿すばる発	9:00
コロボックル フュッテ駐車場発	10:00
車山山頂	11:00
車山山頂発	11:30
コロボックル フュッテ駐車場着	12:00
霧が峰スキー場P	12:20
(昼食)	13:00
福祉センター	14:00
(入浴)	15:00
諏訪大社	15:10
	15:40
岡谷IC	15:50
駒ヶ岳SA	16:20
多賀SA	18:40
(夕食)	19:20
名塩SA	20:40
山電・高砂駅	22:20

レースのカーテンは窓に凍てつき気温はマイナス5度、ここは八ヶ岳 蓼科の森の中です。瀬戸内に住む私たちにはまるで北の極限のような錯覚も受けます。自宅から持参したバナナ一本とヤクルトを一気に飲み干しペンションの朝食を待ちます。昨年に続いて今年も八ヶ岳冬山登山に参加しました。スノーシューもしくはアイゼンを装着しての登山です。食堂の窓の外に大きく控えた蓼科山を背に朝8時、ほかほかのパン、ミルク、野菜や果物たっぷりのサラダ、香りの良い紅茶をいただきます。この寒さでも今年は雪が少ないらしく昨年見た庭のカマクラは無く、小さな鳥たちがえさ箱のひまわりの種をついばんでいます。加古川周辺で私が親しむ鳥は、さぎ、かもめ、土鳩と大きな野鳥ばかりで、えさをついばんでいる「うそ」と言う鳥は口周りを黒く染めなんと愛らしい。バターがお好みの鳥もいるということに驚きです。9時の出発前にアイゼンとスノーシューの携帯を確認してピラタスロープウェイに向かいます。昨年猛吹雪を経験している私たちは今日の抜けるような青空をまぶしいくらいに感じました。ロープウェイ山頂駅から坪庭を抜け2240メートルの北横岳に向かいます。晴天といっても山は気まぐれ、北横岳ヒュッテまではわずかに天候が変わり、冷たい風と雪が顔を撫でていきます。手は凍え鼻汁は遠慮なしに出てきます。

スノーシューは昨年経験済みで今年は実にスムーズに装着できました。当地の樹木シラビソが同じ方向に白い雪を溜め吹雪のすごさを語ってくれます。やがて風が止み振り返るとそこには大きな八ヶ岳が全部みえます。編笠山から天狗岳の風景は滞在3日間私たち一向13名の



の目を楽しませてくれました。木々の高さが低くなるとやがて北横岳山頂に11:40到着。

標高2,240mの表示をした棒杭の案内にはほはずりの連発。青い空には雲一点無く私たちは360

度のパノラマを思いっきり楽しみました。遠く西方面には明日に登る予定の車山も見えます。あの車山の後ろには大きな富士山が見えることを私は昨年の登山で知っています。12時15分折り返しの北横岳ヒュッテに到着、山荘の中では管理者のストーブが燃え煙突から煙も見える懐かしさ。凍えそうな空気の中でおにぎりやインスタントラーメンで昼食。人気の山らしく私たち以外にも登山を楽しむグループ相当あり。午後1時前下山準備。下山はアイゼンに履き替えることになる。装着の練習も無いままに参加した私はアイゼン装着に手間取り仲間の男性諸氏に履かせてもらうという大失態。おおいに反省した。14時下山、縞枯山荘までたどり着く。雨池峠をピストンしようと仲間と決定。再び隊列で進行、昨年はこのあたり猛吹雪に見舞われ風景を楽しむどころかホウホウノテイでロープウェイ山頂まで歩いたことを思い出す。谷間を歩くこと一時間、縞枯山の山頂に到着。もちろんこの場所でも遠く北の山々が見渡せたことは言うまでも無い。天気にも恵まれたことへの感謝と、冬山登山を経験することが出来た幸せとをぐっと飲み込みながらの下山でした。ペンションでの夕食は昨日に引き続きフランス料理、まずはビールで乾杯。野沢菜のお漬物を食べながら今日の一日の話はとどまることなし。ここでまた、失敗、かわいいコーヒークップの取っ手を私の不注意で破損、泣きたい気分でオーナーの奥様に謝る。翌日予定通り車山登山と富士山に思いをはせ11時就寝です。



◆兵庫労山主催 六甲・全山縦走山行

日 時：3月11日（日）

リーダー：砂川(延) 参加者 11名

★六甲・全山縦走に参加して 竹内(保)

前夜から降り続いていた雨は家を出る頃（5：10）には止んでいた。今日は兵庫労山による六甲全山縦走である。

参加者11名は須磨浦公園駅を下車。Hさんはいち早く出発された。6：20 受付を済ませ、公園の中の広い階段状の石畳の道を登っていった。旗振り茶屋へは6時45分に到着。

ここからは美しい景観を満喫しながらの散歩道。高倉台団地を抜けると、きつい階段が待っていた。急斜面をぐんぐん登る。何段あったのであろうか？

横尾山からのびる尾根筋は風水蝕した花崗岩の露岩地帯で須磨アルプスと呼ばれている。

この日は冷たい風が吹き荒れ稜線歩きは寒く相当身に応えた。

六甲・全山縦走行動記録

場 所	着時刻	記 事
須磨浦公園駅	6:05	
受付	6:15	
ロープウェイ 山上駅	6:43	小休止
高倉台	7:20	
梅尾山	7:40	
横尾山	7:55	
妙法寺	8:40	小休止
高取山	9:30	
鶴越	10:20	小休止
菊水山	11:40	
鍋蓋山	12:35	
市が原	13:17	
摩耶山	14:50	小休止
丁字ヶ辻	16:20	
記念碑台	16:35	
六甲ケーブル 山上駅	16:50	
三宮	17:30	反省会

妙法寺から独立峰の高取山へ登る。この山は神戸名物の毎朝登山が盛大と聞いている。

円山町に下った。ここでIさんがピッチを上げ先に行かれた。長い市街地を抜け、菊水山下のチェックポイントに着いたのが10時50分であった。ここからが屹立した山頂への急峻な道の登りで、かなり苦しかった。ウグイスが時折鳴き、心を和ませてくれる。やっとの思いで頂上に到着(11:40)。ここからの眺望は実に素晴らしく、西六甲山系中随一と言われているが、それを楽しむこともなく鍋蓋山を目指して歩を進めた。



有馬街道をまたいでいる天王吊橋を通り、鍋蓋山の登が始まった。菊水山の登りに劣らぬ急坂で、ちょっとつらいが30分ほどで、頂上に着いた。ここから再度山への道はパノラマ道と呼ばれるにふさわしい展望のきくなだらかなみちであった。

大竜寺を直前にして我々は走り出した。なぜならここでの関門時間が13時。チェックを受けた時間は12時57分。すべり込みセーフ。

市が原で前半の縦走が終わり、後半の縦走が始まった。

ここまで約23kmほど歩いてきた身体には天狗道はきつかった。やっとの思いで摩耶山頂上に辿り着いた時は14:50分であった。

記念碑台東側の関門には16時25分に到着したが時間オーバーで通過できなかった。

関門時間が早すぎるのではないかなと思う。

残念ながら、六甲ケーブルで下山。三宮で残念会？反省会？をし家路に着いた。

早朝から約10時間歩きました。皆さん本当にお疲れ様でした。

今回、かなりのスピードで歩いたにもかかわらず六甲全山縦走はできませんでした。労山の設定した関門時間をクリアするには強靱な体力とスピードが要求されることが判りました。体力の維持・増強には日頃のトレーニングの継続が何よりも大切であると再認識した次第です。

◆兵庫労山主催 六甲全山縦走(東六甲縦走コース)

日 時：3月11日(日)

リーダー：金島 参加者 5名

★東六甲縦走に挑戦

尾内

新神戸駅ガード下は、兵庫労山東六甲縦走コースの参加者で賑わっていた。私たちも、受付で参加カードを受け取って、完走を誓い合い、7時30分、金島リーダーを先頭に渡邊さん、藤原さん、佐藤さんと5人仲良く摩耶山、六甲山を目指して出発した。

駅を北に進むとすぐに登山道である。いきなり急登になり、呼吸を整えながら登る。

東六甲縦走：行動記録(休憩)	
新神戸	7:30 発
桜茶屋	8:20 (10)
櫛星台	10:15 (20)
丁字カ辻	12:00 (10)
六甲最高峰	14:00 (10)
船坂峠	15:15 (5)
塩尾寺	17:20
ゴール	17:30 (20)
宝塚	18:20

布引ダムを経て桜茶屋に着く。小休止をした後、市ヶ原が左下に見えた所で全縦走路にのる。稲妻坂、天狗道と急坂が続き喘ぎながら登る。石畳の階段が現れ、登り切ったところが摩耶山頂の掬星台であった。朝まで雨が残っていたが展望は、最高である。しかし、気温が低く風も強い、



小雪も舞っていた。風をよけて20分ほど休憩をした。あとで振り返るとここでの休憩が一番長かった。高度的な難所は過ぎたようである。しかし、距離的にはこれからだ。先が長くゆっくりはしておれないので、歩き出す。

一部全縦の標柱に行き先を惑わされるところはあったが12時に丁字ヶ辻に到着。あずまやで腰を下ろしおにぎりを1つ食べる。ここで、全縦の人に追い越される。

さらに舗道を進み、六甲山ホテルの前を通り、六甲記念碑台でサポーターの道案内を受けて六甲山を目指して歩く。途中、石切道への碑があり、2月に紅葉谷山行で通ったコースを極楽茶屋跡まで行く。

歩道のない一般道に出て、気を遣うが、観光シーズンには少し早いようで車の通りも少なくヒヤリとすることはなかった。一軒茶屋のチェックポイントを2時に無事通過し、ほっとする。

東六甲分岐点から再び山道に入る。急な下りがあり、ふたたび小さな登りになり、また下るの繰り返しである。

もうずいぶん歩いた。時間的なこともあってそう休憩もとれないが、途中、残りのおにぎりを食べる。太平山を過ぎ、歩道を横切って大谷乗越へと進む。ここにもサポーターの人が案内してくださっている。有難い。遠くに阪神の町並みが見える。ひたすら宝塚をめざして歩く。

山中は、ヤブツバキやアセビの花のかわいさに癒される。湿った松葉の上を歩く、柔らかくて心地がいい。松ヤニの匂がする。クマザサの中を通るのも変化に富んでいておもしろい。イノシシが地面を掘り起こしているところもあった。

塩尾寺はまだかまだかと進む。3つの山を越えたようである。

ゴールの横断幕が見えた時は、大歓声。5時40分、時間は少し超過していたが5人で勝ち取った栄光だ。労山サポーターより完走証を頂き拍手されたときは、少し照れくさかった。完走の喜びをかみしめ、記念撮影をしているところに、全縦をされていた今山さんがゴールイン。私たちの2倍以上の距離と高度差を同じ時間での完走だ。喜びはさらに膨らみ、にぎやかになった。冷たい風が頬をさす寒い山行であったが、心はほのぼのと温かくぬくもりのあるいい山行であった。



縦走を成し得た満足感と安堵感で、6人和やかに宝塚駅より帰路に着いた。

六甲全山縦走に挑戦して

河合(信)

3月11日(日)午前3時40分起床、この時には昨夜からの雨がまだ降り続いていた。
このままだと雨の中を長時間歩くことになるのかと危惧したが、家を出る4時40分には雨は上がり心も晴れてきた。

宝殿駅で舩賀さん・待場さんと合流して5時17分の始発電車に乗る、明石で山陽電車に乗り換えて集合場所の須磨浦公園に着いたのが6時7分、受付を6時20分に済ませる。

いざ出発！ 鉢伏山 → 旗振山 → 高倉団地 → 須磨アルプス → 高取山 →
丸山市街地を通り、ひよどり越駅 → チェックポイントの菊水山下を10時50分に通過。

ここまでは割合ゆっくりのペースであったが、最大の難所と聞いていた菊水山を登るところからペースが速くなり菊水山の山頂 → 鍋蓋山の山頂も休憩を取らずに通過。

再度山 → から2回目のチェックポイントである大竜寺の手前でチェック最終時間13時まで後5分・大竜寺の山門を目指して走った・12時57分にチェックを受ける。

ここでは私たちより遅く、13時をオーバーした人も受付の人の情けで通過としていた。

市ケ原の桜茶屋【ここからは3月3日に歩いた東縦走のコースである】天狗道は前半の疲れからか、一週間前よりもかなりしんどかった。これを過ぎると摩耶山である。

ここで一息入れてから、丁字ヶ辻を通り越して3回目のチェックポイントである記念碑台に向かう、急ぎ足で到着したのが14時20分・20分のタイムオーバーである。

スタートしてから六甲記念碑台までの距離は31.5Kmです。残念！！

兵庫労山の人から「ここから先の六甲最高峰のチェックは受けられません」、「下山する手段が無くなりますのでケーブルで下山するように」との指示を受ける。

リタイアしたことに張り詰めていた気持がガタッと崩れて、ケーブルカーで下山する時は達成感に満たされない、宿題を残した気持でした。

三ノ宮でビールとジンギスカン鍋で9名が反省会と称して盛り上がり気持にけじめを付けた。

今回タイムオーバーした問題点

- ① 須磨浦公園・出発受付 —— 5:30~7:00 となっていました。
私達は始発電車で来て6:20の出発受付ですので、これより早い出発は無理と思います。
- ② 今回のコースについては、兵庫労山2007年2月号・3月号に「六甲全山縦走」についてコース変更(須磨アルプス・高取山を通過する)・チェックポイント変更の記載がありますが、チェックポイントの通過時間の設定に十分吟味されたとは思えない。
なぜならば、菊水山の登山から大竜寺まで休みなしのスピードアップで歩き通した。
大竜寺前13:00チェックで記念碑台を16:00までに通過することは通常の早足では無理である。
- ③ これらのことを思うと、出発の6時20分に問題がある様に思われるが、①に記したように始発電車の時刻からして6時までに出発する事は他の方法を採らない限り不可能です。
私達より後にスタートした人々は、殆どタイムアウトでリタイアせざるを得なかったと思う。
実施時期を12月の第1日曜日から3月の第2日曜日に変更したのですから、それによって明

るい時間帯が延びており、チェックする時間に幅を持たせることが可能だと思います。

- ④ 私たちの課題は、出発から菊水山下までの4時間30分をいかに短縮するかにあります。
- ⑤ 兵庫労山「六甲全山縦走」の参加者の伸び悩みが議論にあがっているようですが、今回のタイムアウトで下山を余儀なくされた中には、チェックする時間に不満を抱いた人が少なからず居たと思われます。

来年に再び挑戦しようと思っても、今年の時間配分では無理と思ひ腰が引けて、参加者の減少になってしまうのではないのでしょうか？

- ⑥ 受付時間の最終7時にスタートしても、普通の労山のメンバーが、頑張れば達成出来る・・・このことが大切なことだと思います。

熟達した脚力の人しか受け入れられない、「六甲全山縦走」にしないで下さい。

達成感を共有することで、山の仲間が広がっていくと思います。

◆六甲・森林植物園山行

日 時： 3月15日（木）

リーダー：待場 参加者 8名

★女性会員を対象にした初めての山登り 貝塚(陽)

新神戸駅を9時に集合して、9時15分に出発、布引雌滝から雄滝へと登って行きましたが、過日の降雨の所為か、水量も豊かで、滝の流れも凄い音を立てて、噴霧を上げながら滝壺に落ちていました。此处より布引貯水池に出て桜茶屋、市ガ原を過ぎ、地蔵谷出会いを通過してトエンティクロスを歩き、11時過ぎに森林植物園東門に到着して園内に入りました。

行動記録

場 所	着	発
新神戸	8:00	9:00
桜茶屋	10:04	10:10
地獄谷出合	10:30	
森林植物園	11:45	12:30
// 正門	13:00	
弓削牧場	13:30	14:45
谷上駅	15:15	15:49

園内では丁度梅が満開でしたので花見をしてから、その下で昼食を取る事にしました。食事の後、西村さんが携帯コンロと、クッカー、水等を持って来て居ましたので、お湯を沸かしコーヒーを入れて 頂きました。温かい美味しいコーヒーを飲みながら、色々な世間話をして楽しい一時を過ごしました。

森林植物園正門を出てから山田道ハイキングコースを下り、三叉路を左折して弓削牧場へ着きました。

弓削牧場ではケーキセットを注文して、食べながら、大峰山や、今までに登って来た山の楽しい思い出話、苦労話、世間話等で話題が尽きませんでしたが、今後2～3ヶ月に一度、女性会員を対象にした山行きをしましょう、との案が出ました。時間の経過も忘れる程でしたが、早々に弓削牧場を後にして 再度、山田道ハイキングコースを下り、神鉄谷上駅へ15時20分に到着しました。曇り勝ちの天気でしたが、のんびりとした楽しい、意義の有る山行きでした。

